

『馬の博物館研究紀要』第22号抜刷

2020年12月11日

# 日本中世の馬関係文献目録

長 塚 孝

# 日本中世の馬関係文献目録

長 塚 孝

馬事文化財団では1993年から95年にかけて、日本における馬文化に関する研究のうち、入手困難になっている文献を中心に復刻した「馬の文化叢書」を発刊した。「馬の文化叢書」は、古代（考古）・古代（日本史）・中世（日本史）・近世（日本史）・近代（日本史）・民俗（文化史）・馬学（科学）・馬術（近代馬術）・文学（近代文学）・競馬（イギリス競馬）の全10冊で構成し、それぞれに専門家による解題が付けられ、さらに文献目録が添付してある。

当然のことながら、「馬の文化叢書」発刊以降も馬文化の研究は公表され続けており、およそ四半世紀が経過した現在にいたっては、かなりの数になっていると想像される。その中には、多くの人々の目に触れていない論文等（以下、文献と称す。）もあるはずである。筆者は、展示および調査研究に使用するため、「馬の文化叢書」以降に公表された文献の中で、主に人文科学に含まれる著書・論文等を中心に目録を作成してきた。

目録は、おおまかに総合・考古・古代・中世・近代・民俗・美術・国文・文化財・外国史・農学および図録に分類した。この12分野での文献総数は、馬事文化財団の刊行物を含めない状態<sup>(1)</sup>で、1,073件にのぼった<sup>(2)</sup>。目録のうち、数量の多いのが考古と民俗、特に民俗関係の文献は266件になっている。これに対して歴史関係は、時代別に分けると数量は多いわけではなく、特に日本中世史における馬関係の研究が少ないことが目立つ。馬に限ったことではないが、動物の中で家畜に関しては、まだまだ関心が薄いこともあるのだろう。

いうまでもないことだが、前近代の輸送・農耕・軍事などでは牛馬、特に馬の役割は大きなものがあり、興味が無いので無視してよい対象ではない。今後は、今までよりも家畜利用に関して意識していく必要があると考える。本目録は、家畜に関する研究紹介の第一歩として、過去の研究実績を紹介することを目的とする。

掲載したのは、馬関係の文献の中から、『馬の文化叢書』第3巻（1995年）の刊行以後に公表された、日本中世史における馬および馬文化に関する文献である。文献は、年ごとに書籍とされた編著書、論文を中心とする論考、各地の博物館で作成された展覧会図録の3つに分けている。また、『文化叢書』の編集段階で「文献目録」に掲載できなかった文献も、後日確認している。それらについては、1995年をさかのぼることになるが、「文献目録」の追加という意味をこめて掲載することにした。

『文化叢書』段階では、巻末の「文献目録」に117件の論考をかかげた。本目録では

185件ほどを数えることになったので、日本中世史研究においても馬に関する研究は逐次増加する傾向にはあると思われる。ただし2019年・2020年の数量が少ないのは、現在公表された文献の確認作業を行っている途中のため、最近特に目立った研究等がないというものではない。

なお論考の中には、発表後に執筆者の著書に加えられたものもあるが、それらについては改稿の有無にかかわらず、原則として本目録には掲載していないことを、おことわりしておく。

本目録の情報収集については、筆者が直接書籍・雑誌・図録を確認したもの以外に、『地方史情報』に掲載されている飯澤文夫編「地方史研究雑誌目次速報」をはじめ、『史学雑誌』の「文献目録」、『地方史研究』の「受贈図書論文要目」、『日本歴史』の「雑誌論文目録」を利用させていただいた。そのため、長塚が実見しておらず「孫引き」の状態に掲載した文献もある。本目録によって文献を検索する場合には、ご自身により確認していただきたい。

また、目録に掲載した文献すべてを長塚が所有しているわけではない。そのため、ご連絡いただいても、文献の内容を情報提供することはない<sup>(3)</sup>。ご了承ください。

#### 註

- (1) 馬事文化財団の刊行物以外でも、企画・編集を担当した神奈川新聞社発行「うまはくブックレット」も除外している。
- (2) ただ、あくまでも長塚が利用する範囲で調べたものであり、考古学でいえば全国の発掘調査報告書に目を通したわけではなく、近代史でも隣接する畜産業等の雑誌類を丹念に閲覧したわけではない。したがって馬文化に関する文献数は、これを大きく上回ることはない。
- (3) 仮に所有していたとしても、著作権者への複製許可申請は行っていないので、コピー等による情報提供も行わない。

(ながつかたかし 馬の博物館学芸員)

## 1920年代

### 論考

- ・渡辺世祐「後北条氏伝馬の制 附道路の修築」(『日本交通史論』、日本歴史地理学会、1925年)

## 1950年代

### 論考

- ・片山勝「八十二歳の馬」(『日本歴史』80号、1955年)
- ・芳即正「薩摩の馬」(地方史研究協議会編『日本産業史大系』8、東京大学出版会、1960年)

## 1960年代

### 論考

- ・菊地卓「鎌倉時代における馬の育成策—下野国宇都宮氏の場合—」(『歴史』10号、1969年)

## 1980年代

### 論考

- ・藤田裕嗣「中世農村における市場とその取扱商品—その再検討の試み—」(京都大学文学部地理学教室編『空間・景観・イメージ』、地人書房、1983年)
- ・近藤好和「『後三年合戦絵詞』にみえる特殊風俗に対する—解釈—軍陣での「右ゆがけ」を中心として—」(『風俗』88号、1986年)
- ・大久保美佐緒「『勘仲記』における秦重躬のこと—徒然草第四百五段について—」(『伝承文学研究』35号、1988年)

## 1991年

### 論考

- ・小川信「南北朝期における在地領主の実態と合戦の一断面—高幡山金剛寺不動明王像胎内文書にみる—」(『国学院大学大学院紀要—文学研究科—』22輯)

## 1992年

### 論考

- ・狩野博幸「賀茂競馬図あれこれ その1」(『賀茂文化研究』創刊号)
- ・源城政好「賀茂競馬会神事関係史料 (1) 競馬記」(『賀茂文化研究』創刊号)

## 1994年

### 論考

- ・野澤隆一「後北条氏と伝馬役」(『戦国史研究』28号)

## 1995年

### 論考

- ・上井久義「年中行事絵巻と騎馬の童」(四日市市立博物館『研究紀要』2号)
- ・加藤友康「上総国藻原荘について」(『千葉県史研究』3号)

- ・久保尚文「上賀茂神社領越中新保御厨について—『月詣和歌集』収載歌の紹介—」（富山市日本海文化研究所『所報』15号）
- ・五味文彦「天皇と軍事制」（『講座 前近代の天皇』第4巻、青木書店）
- ・下坂守「岡本保望上賀茂神社興隆覚」（『賀茂文化研究』4号）
- ・長塚孝「戦国期の馬市に関する史料—『森元氏旧蔵文書』の紹介—」（『馬の博物館研究紀要』8号）
- ・樋爪修「武田氏伝馬制度の再検討」（『立命館文学』542号）

## 1996年

### 編著書

- ・川合康『源平合戦の虚像を剥ぐ』（講談社選書メチエ）

### 論考

- ・小和田哲男「戦国期東海道周辺の宿と伝馬役」（静岡県地域史研究会編『東海道交通史の研究』、清文堂）
- ・柴辻俊六「戦国期武田領の助馬制と印判衆」（『信濃』48巻5号）
- ・永井晋「鎌倉幕府の的始」（『金沢文庫研究』296号）
- ・高橋昌明「鶴岡八幡宮流鏑馬行事の成立—頼朝による騎射芸奨励の意味—」（『新しい歴史学のために』224号）
- ・友次直輝・前田芳実・西中川駿・岡本新・橋口勉・石田信繁・向山明孝「千葉地東遺跡から出土した馬骨からのDNA抽出技術の確立とその分子遺伝学的研究」（『馬の科学』33巻4号）
- ・長塚孝「『義成様御稽古大坪流馬書』の紹介」（『馬の博物館研究紀要』9号）
- ・町田有弘「馬の表記方法に関する基礎的考察—郎名を中心に—」（『信濃』48巻10号）

## 1997年

### 編著書

- ・近藤好和『弓矢と刀剣—中世合戦の実像—』（吉川弘文館）
- ・六戸町『北辺の中世史』（名著出版）

### 論考

- ・近藤好和「武器からみた中世武士論」（『日本史研究』416号）
- ・斉木秀雄・西本豊弘「鎌倉市由比ヶ浜南遺跡の獣類頭蓋骨列」（『動物考古学』9号）
- ・野澤隆一「鎌倉時代の伝馬制度」（『豊島岡研修』平成九年度）
- ・盛本昌広「鎌倉期の馬献上の構造」（同著『日本中世の贈与と負担』、校倉書房）

### 図録

- ・彦根城博物館『馬—鞍・鐙から描かれた姿まで—』

## 1998年

### 編著書

- ・五味文彦「相模国と三浦氏」(『三浦一族研究』2号)
- ・沢新太郎「若狭高浜の馬頭観音」(『史迹と美術』682号)

### 図録

- ・馬の博物館『鎌倉の武士と馬』
- ・高松市歴史資料館『馬の文化展』

## 1999年

### 編著書

- ・宇佐見隆之『日本中世の流通と商業』(吉川弘文館)
- ・高橋昌明『武士の成立 武士像の創出』(東京大学出版会)

### 論考

- ・秋谷治「説教節『小栗判官』の鬼鹿毛」(『多摩のあゆみ』95号)
- ・伊藤一美「都市鎌倉の馬と人」(『馬の博物館研究紀要』12号)
- ・井原今朝男「〈書評〉盛本昌広著『日本中世の贈与と負担』」(『日本史研究』437号)
- ・川合康「中世武士の武芸と戦闘―源平合戦を中心に―」(『馬の博物館研究紀要』12号)
- ・菅野正道「戦国期伊達領における馬術・伯楽関係資料―館蔵の新資料から」(『仙台市博物館調査研究報告』19号)
- ・鍛代敏雄「石清水神人と交通」(同著『中世後期の寺社と経済』、思文閣出版)
- ・木村真美子「中世の院御厩司について」(『学習院大学史料館紀要』10号)
- ・齋木秀雄「発掘調査から見る厩と馬」(『馬の博物館研究紀要』12号)
- ・清水克行「足利義持の禁酒令について」(『日本歴史』619号)
- ・太向義明「武田“騎馬隊”像の形成史を遡る」(『武田氏研究』21号)
- ・坪井利剛「中・近世における供養絵馬」(『日本歴史』619号)
- ・西本豊弘「鎌倉市由比ヶ浜南遺跡の出土馬について」(『馬の博物館研究紀要』12号)
- ・野口実「坂東武士と馬」(『馬の博物館研究紀要』12号)
- ・徳仁親王「西園寺家所蔵『河瀬清貞山城国美豆牧代官職請文』について」(『学習院大学史料館紀要』10号)
- ・幡鎌一弘「中近世移行期の春日若宮祭礼と供物負担」(神戸大『史学年報』14号)
- ・山本隆志「鎌倉時代の宿と馬市・馬喰」(筑波大学歴史・人類学系『年報日本史叢1999』)

### 図録

- ・船橋市郷土資料館『馬と船橋―よみがえる古代・中世の世界―』

## 2000年

### 編著書

- ・藤本正行『鎧をまとう人びと』(吉川弘文館)

## 論考

- ・宇佐見隆之「陸上交通と水上交通」（峰岸純夫編『今日の古文書学』第3巻、雄山閣出版）
- ・近藤好和「騎射と流鏑馬—その射法について—」（『日本歴史』630号）
- ・田中慶治「戦国期大和国宇智郡に関する二つの史料」（『日本史研究』454号）
- ・長塚孝「馬の博物館本『御成敗式目』の紹介と翻刻」（『馬の博物館研究紀要』13号）
- ・山田邦明「鎌倉府の八朔」（『日本歴史』630号）

## 図録

- ・岩手県立博物館『北の馬文化』

## 2001年

### 論考

- ・石井清文「奥州貢馬貢金京進ルートについて」（『政治経済史学』419号）
- ・小笠原長和「馬と後北条氏 北条氏直定書」（『財団法人石川文化事業財団報』324号）
- ・カール・F・フライデー「騎射の歩みの一考察—中世日本に於ける国家と文化と技術—」（東京大学史料編纂所『研究紀要』11号）
- ・砂川博「畠山参戦・帰服説話」（同著『平家物語の形成と琵琶法師』、おうふう）

## 2002年

### 編著書

- ・長塚孝『日本の古式競馬—1300年の歴史を辿る—』（神奈川新聞社）

### 論考

- ・大島史郎「利刈郷と利刈牧について」（『群馬文化』270号）
- ・功刀俊宏「戦国期の馬借と流通経済—越前国南条郡今泉浦中屋氏から見た馬借たち—」（『白山史学』38号）
- ・河野通明「博物館活動と四季耕作図研究」（『歴史と民俗』18号）
- ・高橋秀樹「鎌倉幕府と馬—三浦氏とのかかわりを中心に—」（『市史研究横須賀』創刊号）
- ・田中慶治「国人古市氏の馬借・関支配について—南山城を中心に—」（大乘院寺社雑事記研究会編『大乘院寺社雑事記研究論集』、和泉書院）
- ・野口実「法住寺殿と小松家の武将たち」（『京都女子大学宗教・文化研究所研究紀要』15号）
- ・服部英雄「犬追物を演出した河原ノ者たち—犬の馬場の背景—」（『史学雑誌』111編9号）

## 2003年

### 論考

- ・網田樹夫「大坪道禅と伊勢照禅」（『刀剣春秋』613号）
- ・鎌田千尋「中世の博労について」（『橘史学』18号）
- ・郷道哲章「中世『牧』の分解と近世村のめばえ—信濃国常盤牧の場合—」（『三田中世史研究』10号）
- ・近藤好和「『吾妻鏡』にみえる騎射芸」（『市史研究横須賀』2号）

- ・樋口雄一郎「天文期近江国得珍保における馬商売相論の再検討」（『三田中世史研究』10号）

## 2004年

### 論考

- ・池田哲朗「中世前期の合戦における騎馬の実態」（『日本史学集録』27号）
- ・入間田宣夫「八条流馬術の受容と戦国社会—大崎領・伊達領の場合—」（大石直正・小林清治編『陸奥国の戦国社会』、高志書院）
- ・土橋誠「翻刻『競馬秘記』（上）」（京都文化博物館『朱雀』16集）
- ・長塚孝「『権太栗毛譚』の背景—『源平盛衰記』から戦国期東海へ—」（『馬の博物館研究紀要』15号）
- ・長塚孝「名馬の条件—荒馬に乗る武士たち—」（奥富敬之監修『源義経の時代』、NHK出版）

## 2005年

### 編著書

- ・近藤好和『騎兵と歩兵の中世史』（吉川弘文館）

### 論考

- ・太田浩司「『馬場』・『番場』地名考」（『歴史地名通信』50号）
- ・杉山一弥「室町幕府と出羽大宝寺氏」（『地方史研究』313号）
- ・土橋誠「翻刻『競馬秘記』（下）」（京都文化博物館『朱雀』17集）
- ・長塚孝「鎌倉時代の武士と馬」（『三浦一族研究』9号）
- ・長塚孝「織田信長と賀茂競馬」（『馬の博物館研究紀要』16号）

### 図録

- ・馬の博物館『源平合戦を馬が行く』

## 2006年

### 論考

- ・土橋誠「賀茂競馬草創に関する二三の憶説」（『京都府埋蔵文化財論集』第5集）
- ・野澤隆一「中世後期の伝馬役—戦国大名伝馬制度の歴史的前提—」（二木謙一編『戦国織豊期の社会と儀礼』、吉川弘文館）

## 2007年

### 論考

- ・五味文彦「武士と庶民の生活」（山梨県編『山梨県史』通史編2中世）
- ・辻浩和「院政期における後鳥羽芸能の位置—後白河芸能との関係を中心に—」（『史学雑誌』116編7号）
- ・前川辰徳「鹿島社白馬祭と常陸平氏について」（『湘南史学』16号）

## 2008年

### 論考

- ・入間田宣夫「中世東北の馬牧群」(入間田宣夫・谷口一夫編『牧の考古学』、高志書院)
- ・近藤好和「日本馬は本当に貧弱か?—馬体の再検討—」(入間田宣夫・谷口一夫編『牧の考古学』、高志書院)
- ・杉山陽亮「北方の馬産地—糠部地域における馬産の一考察—」(入間田宣夫・谷口一夫編『牧の考古学』、高志書院)
- ・宮永一美「史料紹介 酒井家文庫『野尻又四郎直伝馬術書』について」(『一乗谷朝倉氏遺跡資料館紀要2007』)
- ・村上寿珠「戦国期における巖島神社への神馬の寄進」(『芸備地方史研究』260・261号)

### 図録

- ・馬の博物館『馬の神様仏様—彫像・肖像・聖教—』
- ・大分市歴史資料館『馬との付き合い—おおいた馬物語—』

## 2009年

### 論考

- ・北島大輔「大内氏は何を食べたか—食材としての動物利用—」(小野正敏・五味文彦・萩原三雄編『動物と中世—獲る・使う・食らう—』、高志書院)
- ・河野真知郎「都市鎌倉における動物」(小野正敏・五味文彦・萩原三雄編『動物と中世—獲る・使う・食らう—』、高志書院)
- ・近藤好和「装束・武具・馬具にみる動物部位の使用」(小野正敏・五味文彦・萩原三雄編『動物と中世—獲る・使う・食らう—』、高志書院)
- ・斉藤研一「中世絵画に見る動物の捕獲・加工・消費」(小野正敏・五味文彦・萩原三雄編『動物と中世—獲る・使う・食らう—』、高志書院)
- ・佐藤誠孝「騎射における大鎧の実用性をさぐる—甲冑流鎧馬にての実験を紹介—」(『甲冑武具研究』164号)
- ・土橋誠「翻刻『競馬口伝抄』」(『資料館紀要』37号)
- ・松井章「動物考古学からみた中世の動物利用」(小野正敏・五味文彦・萩原三雄編『動物と中世—獲る・使う・食らう—』、高志書院)
- ・盛本昌広「牛馬の放牧と藁の確保」(小野正敏・五味文彦・萩原三雄編『動物と中世—獲る・使う・食らう—』、高志書院)

### 図録

- ・南相馬市博物館『相馬の馬』(2009年10月)

## 2010年

### 編著書

- ・近藤好和『武具の日本史』(平凡社)

- ・篠崎讓治『馬小屋の考古学』（高志書院）

## 論考

- ・桜井彦「河内国高連御牧関連文書」（『書陵部紀要』61号）
- ・長塚孝「中世後期の馬産と馬具製作—東海地方を中心に—」（『馬の博物館研究紀要』17号）
- ・二本松康宏「池月と磨墨」（大津雄一・日下力・佐伯真一・櫻井陽子編『平家物語大事典』、東京書籍）
- ・曳地隆元「中世における馬屋状遺構について」（『信濃』730号）
- ・山本宗尚「翻刻『賀茂社記』」（『馬の博物館研究紀要』17号）

## 図録

- ・馬の博物館『戦国の城と馬』

## 2011年

### 論考

- ・植月学「甲斐における平安・鎌倉時代の馬産—ウマ遺体の分析による検討—」（『山梨県考古学協会誌』20号）
- ・木村英一「新日吉社小五月会と院・鎌倉幕府」（『史敏』9号）
- ・齋藤拓海「近衛府と競馬」（『広島大学大学院文学研究科論集』71巻）

## 図録

- ・馬の博物館『ススメ！小田原北条氏』

## 2012年

### 論考

- ・大石泰史「今川領国の宿と交通—宿と流通を語る『上』と『下』—」（『馬の博物館研究紀要』18号）
- ・黒田基樹「北条氏の陸上交通政策」（『馬の博物館研究紀要』18号）
- ・齋藤拓海「新日吉五月会の構造と変遷」（『史人』4号）
- ・中尾七重「古渡路遺跡の中世掘立柱建物について—架構等の復元とその特徴—」（『文化学園大学紀要』服装学・造形学研究43号）
- ・中尾七重「中世館外の厩集落—新潟県古渡路（ふるとろ）遺跡—」（『武蔵大学総合研究所紀要』No.21）
- ・長塚孝「戦国期常陸の馬産」（『馬の博物館研究紀要』18号）
- ・長濱幸男「高腰城跡から出土した馬歯のC14年代測定について—附録、高腰城跡出土馬歯の年代測定—」（『宮古島市総合博物館紀要』16号）
- ・平山優「武田氏の流通統制について」（『馬の博物館研究紀要』18号）

## 2013年

### 論考

- ・金子岳史「永青文庫所蔵《調馬図屏風》についての一考察—作品の紹介および「騎馬図巻」との関係—」(熊本県立美術館『研究紀要』13号)
- ・長塚孝「北条氏綱が作った鞍橋」(黒田基樹編『北条氏年表』、高志書院)
- ・長塚孝「サラブレッドではなくポニー—名馬の条件は第一に『スタミナ』」(『新発見! 日本の歴史』06鎌倉時代1、朝日新聞出版)

### 図録

- ・馬の博物館『鎌倉時代の馬と道—畠山重忠と三浦一族—』

## 2014年

### 論考

- ・池谷望子「琉球馬の中国への朝貢とその形質について」(『南島史学』82号)
- ・今野慶信「相模武士と交通」(『馬の博物館研究紀要』19号)
- ・篠崎譲治「中世の絵巻物・屏風絵にみる厩舎」(『東京考古』32号)
- ・清水亮「中世前期武蔵武士のテリトリーと交通—秩父一族と横山党—」(『馬の博物館研究紀要』19号)
- ・千野原靖方「中世成り期常陸内乱の構造—将門・忠常の軍事基盤『馬と船』を中心に—」(『常陸の歴史』48号)
- ・高橋修「中世常陸の馬と武士団」(『馬の博物館研究紀要』19号)
- ・長塚孝「戦国期下総における馬の流通と生産」(『馬の博物館研究紀要』19号)
- ・中津川督章「『枿方』はバンバと一体化した馬の施設」(『柏歴史クラブ会報』4号)
- ・野澤隆一「今川氏の伝馬制度に関する一試論」(『国史学』212号)
- ・牧野隆夫「保存修復学的立場から見た山形県指定文化財普門坊蔵木造馬頭観音立像制作時代の再考」(『古典彫刻の修復と研究』創刊号)
- ・森道彦「牛馬似絵の意味と機能—中世絵画における畜獣表現と『駿牛図』をめぐる一試論—」(『朱雀』26号)

### 図録

- ・山梨県立博物館『甲斐の黒駒—歴史を動かした馬たち—』

## 2015年

### 論考

- ・石原比伊呂「貢馬御覧に見る室町時代の公武関係」(同著『室町時代の将軍家と天皇家』勉誠出版)

## 2016年

### 編著書

- ・佐藤誠孝著『図説戦国甲冑武者のいでたち』(新紀元社)

## 論考

- ・伊藤一美「馬眼医療と『性観之書』」(『日本獣医史学雑誌』53号)
- ・植月学「由比ガ浜中世集団墓地遺跡から出土した動物遺体」(鎌倉市『由比ガ浜中世集団墓地遺跡(No.372)発掘調査報告書』、博通)
- ・河内将芳「都市の中の市—中世京都、五条馬市と三条米場をめぐる—」(仁木宏編『日本古代・中世都市論』吉川弘文館)
- ・久保田正志「近世初期日本における騎馬武者の戦闘態様と存在意義」(『軍事史学』52巻1号)
- ・寺本健三「京都国立博物館蔵『駿馬図』について」(『史迹と美術』869号)
- ・長坂一郎「山形県長井市普門坊蔵木造馬頭観音立像新考—笠間時朝造立宇都宮明神本地仏としての検証—」(『仏教芸術』347号)
- ・山下智也「合戦時の輸送と宿場—小田原合戦時の伝馬課役から—」(『織豊期研究』18号)

## 図録

- ・馬の博物館『信長の馬・秀吉の馬』

## 2017年

### 論考

- ・柴裕之「織田権力の交通・流通政策—その展開と実態—」(『馬の博物館研究紀要』20号)
- ・竹村雅夫「伊達政宗と具足—『雪下胴』を中心として—」(『馬の博物館研究紀要』20号)
- ・長塚孝「中世武士と馬」(『三浦一族研究』21号)
- ・本多博之「豊臣政権の次夫・次馬・次飛脚・次船制について」(『内海文化研究紀要』45号)

## 図録

- ・馬の博物館『馬をめぐる武将たち』

## 2018年

### 論考

- ・セリンジャー・ワイジャンティ「『平家物語』に見られる馬の文学的象徴性」(石井正己・錦仁編『文学研究の窓をあける—物語・説話・軍記・和歌—』、笠間書院)
- ・伊藤一美「『御隨身三上記』にみる室町将軍家「御厩」の馬療治」(『日本獣医史学雑誌』55号)
- ・伊藤一充「建武期の糠部と尾駁の牧」(六ヶ所村「尾駁の牧」歴史研究会編『尾駁の駒・牧の背景を探る』、六一書房)
- ・入間田宣夫「『尾駁牧』『糠部駿馬』をめぐる人・物・情報の交流について」(六ヶ所村「尾駁の牧」歴史研究会編『尾駁の駒・牧の背景を探る』、六一書房)
- ・植月学「青森県内出土中世馬の動物考古学的研究」(『弘前大学国史研究』145号)
- ・太田弘毅「元軍の日本遠征と馬匹—騎兵部隊の動きを中心に—」(『政治経済史学』615号)

- ・岡陽一郎「六所宮から観音堂へ一馬と水をめぐる信仰の変遷」(『平成29年度骨寺村荘園遺跡村落調査研究報告書』、一関市博物館)
- ・小口雅史「『九戸四門制』の創設と糠部駿馬」(青森県史編さん通史部会編『青森県史』通史編I 原始古代中世)
- ・片山寛明「和式鎧の右と左」(『馬の博物館研究紀要』21号)
- ・金澤真嗣「寛永六年『下総国小金野馬売付之帳』について」(『馬の博物館研究紀要』21号)
- ・鎌倉左保「武蔵武士団の登場」(『多摩のあゆみ』172号)
- ・長塚孝「朝倉政元一鞍を作る戦国武士の周辺」(『馬の博物館研究紀要』21号)
- ・長村祥知「中世前期の在京武力と公武権力」(『日本史研究』666号)
- ・柳原敏昭「糠部の馬と都鄙関係」(青森県史編さん通史部会編『青森県史』通史編I 原始古代中世)

## 2019年

### 論考

- ・伊藤一美「本田家旧蔵・建久3年8月記名『馬医書』の一考察」(『日本獣医学雑誌』56号)
- ・野澤隆一「武田氏の伝馬制度—天正三・四年伝馬定による宿立て—」(同著『戦国期の伝馬制度と負担体系』、岩田書院)
- ・馬場廣幸「甲斐の馬」(『飛驒の中世』9号)
- ・平山優「新発見の武田氏発給文書二点—武田氏の伝馬制度に関する新知見を兼ねて—」(『武田氏研究』59号)

### 図録

- ・馬の博物館『名馬と武将』

## 2020年

### 編著書

- ・樋口隆晴・渡辺信吾著『図解武器と甲冑』(ワン・パブリッシング)

### 論考

- ・徳網猛「山名氏と犬追物」(『但馬史研究』43号)

